

教科	工業	科目名	デザイン史	単位数	2
学科	インテリア科	学年	3 学年	履修区分	選択
使用教科書	デザイン史 (東京電機大学出版局)				
副教材など					

1. 科目の目的

人が歴史の中で創造してきた「もの」のデザインは、歴史的・宗教的・経済的背景から風土、地域性が深く影響している。造形とデザインについての歴史的な理解を深め、インテリアデザインに活用できかつ鑑賞できる能力と態度を育てる。

2. 授業の内容と進め方

我が国の文化から発生した日本デザインを中心に時系列にその時代の背景を踏まえ代表的なデザインを取り上げながら、またそれぞれのデザインは相互に深く関わっているため、学んだ内容をフィードバックしながら授業を進めていく。

3. 学習する上での留意点

造形素材の表現や特性の理解を深めるために、プリント、写真やビデオの視覚的教材や必要に応じて美術館や博物館の見学を取り入れていく。

4. 課題等について

- 1) 各単元において小テストを行い、そこまでの内容理解度のチェックをし、理解が不足していれば補習・再テストを繰り返す。
- 2) レポートおよび課題プリント

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
知識・技術	デザイン史に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、デザインを適切に評価することができるか。また、各様式の特徴を要求に応じて取り入れ、提案する技術を身につけているか。
思考・判断・表現	時代や地域によって変化するデザインを基本的な知識を基に、適切に判断し表現する創造的な能力を身につけているか。
主体的に学習に取り組む態度	デザインに関する発生や歴史的背景について関心をもち、主体的に学習に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけているか。

6. 評価の方法

評価については、定期考査の成績や課題の提出状況、授業態度、授業・課題への取り組む姿勢を総合的に判断する。

- 1) 定期考査および実力考査
- 2) 課題への取り組み
- 3) 授業への取り組み (出席状況・発表・意欲・ノートの内容)

《指導計画》 科目名 デザイン史

3 学年

2 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	1. インテリアデザインの発想 1.1 デザイン史を学ぶ理由 1.2 デザイン史の対象と領域 1.3 造形の様式 1.4 地域と時代	人間が歴史の中で作り出してきた営みを振り返りその時代の生活や精神を読み取り、デザイン史を学ぶ意味を理解する。	行動観察 質疑応答
	5	2. 日本 2.1 原始 2.2 古代 飛鳥時代	大陸から伝来した生活文化と仏教文化を日本の造形芸術にどのように吸収されていったかを学習し神社仏閣がどのように形成されたかを学習する。	小テスト 中間考査
	6	奈良時代 平安時代		行動観察 質疑応答
	7	2.3 中世 鎌倉時代 室町時代	貴族文化から民衆文化への時代変化および、次の和風様式「書院造」が誕生する過程を生活・宗教・造形・工芸等多方面から学習する。	小テスト 期末考査
	7	2.4 近世 桃山時代	日本人の自然観に基づく「茶室」「数奇屋造」、室内装飾・工芸品の意匠、町人の生活文化を学び理解する。	行動観察 質疑応答 小テスト
	9			
	10	江戸時代	豪華絢爛な内装・建築から、「質素儉約」の時代に突入する。質素な見た目の中にも素材や意匠をこらした室内装飾や工芸品の意匠について学習する。	中間考査 行動観察 質疑応答 小テスト
11			期末考査	
12	2.6 近代 明治時代	生活の洋風化、産業技術の導入による建築・工芸・デザインの発展や社会の変化について学び理解する。	行動観察 質疑応答 小テスト	
三 学 期	1	大正・昭和時代		行動観察 質疑応答
	2		明治時代の近代化の基盤の上に、さらに欧米のデザイン運動の影響を受けた工業デザインが発達した。ここでは産業工芸について学習する	期末考査
	3			